第13回東日本大震災NGO情報交換会

・日時：2011年6月21日（火）15時～17時
・場所：早稲田奉仕園アバコビル6階　スカイラウンジ
・出席者リスト参照

議事録

1　JANICからの情報提供

【JANIC田島】

本情報交換会に関するアンケートに基づき、今週から隔週の開催となる。また、県レベル情報提供の要望があったため、今回から県別情報を入れることとした。

1.1　各県の概況（別添１）

【JANIC田島】詳しくは県別情報シートを手持ち資料として持ち帰って目を通して頂きたいが、三県共通の課題として特に、①雇用②仮設住宅への移行、が挙げられる。

① 雇用:宮城県シートに「他の地方に出て仕事をしたいという人があまりいない」とあるが、実際、大槌町のハローワークでも県外の募集が多かった。福島県シート「日本はひとつ　しごとプロジェクト」（沿岸部の13市町村で、計600人を臨時職員等として雇用する計画）について、本会でも何度か言及されたが、町村まで通達や予算が下りていないなどの困難があった模様。

② 仮設住宅への移行：岩手県シートに典型例。コミュニティ分断を防ぐため50戸以上の仮設住宅には集会場を設けるという規定があるが実際には設けていない所もあり、また50戸未満の場所が多いのは、用地不足が理由と推察される。抽選に当たっても辞退者が多く、再抽選を行うケースも報告されており、南三陸でも300世帯中100世帯程度しか入居していない、という情報があった。仮設応急物品の一覧が添付されているが、ピースウィンズジャパン、日赤が、行政から支給されない物品を配布している。

本情報シートでは公的にあまり発表されていない情報を拾ったことから、内容的に不適切なものも中にはあるかもしれないので、ご了解ください。仮にこれを基に活動を進める場合には、行政等に再度ご確認頂きたい。

【JANIC山口】このシートの改善点を皆さんにご指摘頂き、各団体からの情報も盛り込むことで、より有効な情報シートにしていきたいため、協力よろしくお願いします。

1.2　富士通PC提供について（別添２）

【JANIC難波】富士通より、中古PCを50台前後寄贈頂けることとなった。PCの仕様や状態について配布資料を参考に検討いただき、もし、供与を受けたい場合は震災タスクへお申し出ください。提供開始は7月上旬の予定。

1.3　今後の主なセミナー・会合について（別添３）

【JANIC藤岡】今後の具体的なセミナー・会合情報については配布資料の通り。このほか今後予定されているイベント等があれば、JANICの方にご連絡頂きたい。JANICのWebサイトの「イベントに参加する」というコーナーを通じて投稿可能、震災MLにも流していただきたい。

2　参加団体・組織からの活動紹介・情報提供

2-1 JICA 地球ひろば（高田）

・JICA としての動き：この２週間で大きな変化はなく、遠野まごころネット・二本松協力隊訓練所を中心に協力。7 月中旬くらいに遠野への協力隊派遣を一区切り、二本松訓練所は一時避難所でもあり 7 月末閉鎖予定だが、被災者ニーズに基づき対応。

・グローバルフェスタ 2011：10 月第一週末に例年開催。本年度は、世界中からのメッセージや支援をいただいたこともあり、国際協力がグローバルな連携・支援につながったという趣旨で震災関連としたい。また、10 月には東日本大震災への関心が薄れている恐れなしとしないことから、本イベントを通じてアピールしていきたい。毎回大きな核になるイベントを行っているのだが、今年のテーマは「絆」。世界や国内からのメッセージを展示し、できれば、被災地域の子ども（中学・高校生）が描いた絵（例：自分の 10 年後、東北の 10 年後）を集めるという案が出ている。外務省のテレビ番組でもアピール、海外の天皇誕生日の「感謝のつどい」で展示したい。本情報交換会の参加団体で、被災地の子どもと触れ合う機会が多い団体等のご協力頂けないか相談したい。絵をかいてもらうということが、センシティブで慎重に対応するべき問題であること認識している。

2-2　ブリッジエーシア・ジャパン（大津）

特に大きい変化はない。引き続き大船渡・陸前高田で配食活動。6 月上旬陸前高田のドライビング・スクールの厨房整備が終わり、調理を始めている。

2-3　JHP・学校をつくる会（田中）

3 月 19 日から宮城県南三陸町で 100 名を超えるボランティアを派遣。

被災した子供達対象の林間学校を計画していたが、教育委員会が機能していない等の理由から見送り。その代り、夏にボランティア派遣を拡大したい。

災害ボランティアセンター（DVC）が縮小の動き。これまで行っていた車での避難所ニーズ調査を終息させる。近畿圏の社会福祉協議会（社協）も徐々に引き上げつつあり、規模縮小の傾向にある。お知らせリーフレットを作ったので後程配布する。

2-4 International Medical Corps（田中）

最近地域代表が就任、今後最低 1 年支援するということが決定。また中長期にかけての支援に向けたパートナーを探している。

2-5 ホープワールドワイド・ジャパン（加藤）

二週間の動き、東松島市内避難所で炊き出し。仙台市内での障害者支援。避難所から仮設住宅へ移動される方の引っ越しサポート。亘理町 DVC については、今後とも継続してスタッフを派遣していく。JANIC を通した、避難所のクリーニングできる団体を探している東北大学の先生からの依頼について、南三陸町には別の団体が対応しており、そのほかの地域でのニーズを調査する予定。コストがかかることと避難所は行政所管で調整を要するため、支援頂けるドナーは声を掛けてください。

2-6 地球市民 ACT かながわ; TPAK（伊吾田）

5 年来つきあいのある釜石市で、緊急支援から教育支援（全壊した２つの保育園への設備復旧、地域とつなぐ支援）等を実施。月 1 回ベースで現地入り。5 年を目安に長期的な被災者に寄り添う支援を実施予定。関東では心のケアを中心にしたボランティア育成講座を 5 月までに 5 回

実施、7月から再開して進めていきたい。

2-7 電通（黒須）
民間企業の社会貢献企画の部署、今後企業の社会貢献を進める上での勉強として来た。今後NPOと民間企業が協働できる企画を考えていきたい。

2-8 Church World Service; CWS（伊藤）
先ほどもご紹介あったが、7月4日（月）16時より、心理的ストレスケアーセミナーを開催予定。ぜひお越しください。

2-9 Victor Shu（NCC震災復興支援室）
日本キリスト教協議会（National Christian Council Japan NCC）の震災復興室立ち上げサポートために来日。5月27日に着任したばかりのため、現時点で有益な情報提供はできないが、次回から具体的な活動についてご紹介するなど、貢献したい。現在はインフラ整備等を行っている。韓国で教鞭をとっているが、国連でNGO関係の業務に従事、目下、ワールドビジョンの北朝鮮担当ディレクター。

2-10 ワールドビジョン・ジャパン（蘇畑）
6月から始まった新しい企画として、南三陸町の小中学校（小学校4、中学校2）に対するおかず給食支援。6月10日から4つの保育園が全日保育を再開し、パン＋牛乳の簡易給食、水（上下水道未復旧のところ）の支援を開始、今後おかずの支援も検討。
岩手県・宮城県の仮設住宅へ入居される方へ生活支援物資の提供を継続。
今後の中長期的支援の方向性は固まりつつあり、6つの分野が決まった。まだ詰めていかないといけない。まとまったら本会やHPで公開予定。
【JANIC田島】岩手県の仮設住宅生活支援物資配布については、Peace winds Japanが南部を、ワールドビジョン・ジャパンが北部をカバーしているという状況。

2-11 日本イラク医療ネットワーク;JIM-NET（澤田）
初参加。石巻市を中心に、鎌田實医師が代表ということもあり、仮設風呂を2か所で提供、および河北で医療支援。お風呂の一つはお寺の境内、あとは小学校で提供。
仮設風呂提供の継続については、自衛隊の撤退ほか、関係者の状況を確認しながら検討する。
医療支援は主に地域医療だが、もともと医療体制が十分でなかった地域でもあり、相応に長期的な視点で考慮しなければならないと感じている。

2-12 JGC通訳ボランティア事務局（大崎）
東京英語いのちの電話の「心のケアセミナー」に通訳を派遣。また、米国日系人協会の依頼でジャーナリストの岩手県取材を支援。JANICの依頼でNGOの被災地プロジェクト助成金申請の手伝い。国連人権高等弁務官事務所トレーニングセミナーに関し、東京、岩手の各セミナーに2名づつ通訳を派遣。トルコ親善協会の依頼により、被災地支援に関する協議をしている。
東京MXテレビから「縁の下の力持ち」という切り口で、タイ医療団への同行について取材を受けた。詳細はHPに記載。http://www.relief-interpreters.org/

2-13 シャプラニール＝市民による海外協力の会（筒井）

3 月より福島県いわき市で活動。緊急物資移送から始まり、ボランティアセンターの立ち上げと運営協力。現在いわき市の 2 か所のボランティアセンターへの協力、一時提供住宅へ移る方への、社協・行政と連携しながらの生活物資の提供。
今月中に、中長期の協力を行うかどうかも含め、策定する予定。

2-13 オイスカ（池田）

作業着等の衣類を中心にした物資支援実施。仙台市の支援者組織からロータリークラブを経由して各避難所へ配布。自身は気仙沼、女川へ業務調整で明日から出張。今後、仮設住宅への物資支援、子どもとお年寄りの心の支援としてつみ木を使った遊び場提供予定。
7 月 11 日津田塾大学ホールで、海岸部の松林復興再生について、林野庁、各県と共催でシンポジウム開催予定。
ミヤンマーから 2008 年 5 月サイクロン被災地で約 2 か月活動したスタッフが研修で来日。日本の NGO/NPO 活動学びたいと本日情報交換会に同道した。

2-14 ピースボート（合田）

石巻市を中心に活動。3,500 名以上のボランティアを派遣。一週間単位で行ける人は少なく、2～3 日の短期、または企業社員ボランティアで夏までつないで行きたい。全国（名古屋、大阪、静岡、福岡、新潟）でボランティアの説明会をしている。
石巻では炊き出し・配布、泥出し、支援物資管理倉庫、新たに女川と東松島での仮設住宅への物資搬送、避難所でのダニ・バスターズ、また漁業支援の一環として港の清掃。石巻災害復興支援協議会は、災害対策本部・自衛隊と連携、物資配布での協働や、幹線道路 398 号線で自衛隊車両が大きな障害物を取り除き、そのあとをボランティアが整備していく、という活動を行った。

2-15 グッドネーバーズ・ジャパン（芳賀）

企業からの協力も得た支援活動を引き続き行っている。岩手県の仮設住宅の話が出ていたが、旭硝子から 41 家族分の食器を提供いただき仮設に今週納入、パナソニックから提供の中古の PC61 台を大槌町と釜石市の幼稚園・保育園・児童館等へ配布。また Canon からはプリンターを提供。
大槌町の広場にモンゴルから提供されたゲルというテントがあるが、そこを管理する自衛隊と連携して子供に遊び場を提供するプログラムを実施。
大槌町、桜木町のボランティアセンターにスタッフが先週から常駐。大槌川の清掃（鮭プロジェクト）も担当しているが、同プロジェクトのため東京からボランティア・バスを今後 4 週間かけて週一で派遣予定。
子供の心理ケア・プログラムをワークショップ形式で 5 月から提供していたが、臨床心理士より、子供を対象にしてワークショップをすることについて実態にそぐわないのでは、という意見があり、目下、専門家が子供達が遊ぶ様子をアセスメントしながら、個別に問題解決という方向に変えている。
弔いの気持ちに配慮にするという趣旨から、仏壇を修理したいという声に応え、仏壇修理サービスの提供を検討中。
7 月 6 日（水）に企業の CSR 活動と NGO との連携についてシンポジウムを主催予定。事例には、本情報交換会で当 NGO が企業と対話の場を得、コミュニケーションを積み重ねることにより成果に結びついたというケースも共有させてもらいたい。

2-16 旭硝子（岸和田）

2か月ぶりに参加。従業員による現地のボランティアを経団連の枠組みで派遣しているほか、理化学ガラス（ビーカー、フラスコ等）の被災した大学への提供、コレール（割れにくい食器）の配布。これまで本情報交換会で知り合った団体を通じて約6万点、一億円相当を提供できた。引き続き一定の枠の中でニーズに対応していきたいが、提供の仕方を再度検討している。自宅避難者の中に、いまだに紙皿を使っている家庭があるという話を聞くが、そういったところへの支援など、ボランティアセンターもなかなか把握していない可能性あり、情報あるところあれば教えてください。

当社の拠点がある福島県への支援にも力を入れたい。岩手・宮城に比較して支援体制も違うというイメージ、ニーズ情報提供等を願いたい。食器提供の方法に関しても、単に渡すだけではない工夫（例：5月末グッドネーバーズと協力したフリーバザー、被災者にも楽しんでいただけるような）を考えたい。

3　意見交換ほか

3-1 ドナーミーティングについて：

→CWS：以前の情報交換会でドナーミーティングの話が出ていたが、目下どうなっているのか聞きたい。他の団体からも関心があるという声をきいた。

→JANIC 田島：次回情報交換会までに連絡できるように確認する。

3-2 自宅、みなし仮設避難者への支援：

→JANIC 田島：旭硝子より話題に上っていた自宅避難者、および4月30日厚生労働省社会保護局より、被災者が自主的に借り上げた民間住宅も仮設住宅と見做すという通達に基づき「みなし仮設」と呼ばれる民間住宅の避難者の問題。応急仮設建設計画は同通達以前に策定されたため、仮設が余っている現状。4月時点で72,000戸あまり計画し、目下51,000戸で約21,000戸が宙に浮いている計算だが、これが「みなし仮設」でカバーされていると推察される。これらへの支援の手届いているのか？緊急支援物資も家電六点セットも仮設入居者が対象では？

→WVJ：物資支援は応急仮設住宅が対象と思う。15,000に配布予定だが、みなし仮設については要確認。

3-3　グローバルフェスタに関する「子供の絵」について

→JANIC 田島：今の時期に子供に希望の絵を描かせるということについて意見交換をしたい。

→グッドネーバーズ：かつて画家の方々がアートで支援をしたいという申し出があり、大槌保育園のカーテンに子供が絵をかくという企画をしたことがある。子供に強制的に絵を描かせるということは、アートセラピーになる恐れがあり、専門家が一緒であれば良いが、たとえば絵具が混じり合って黒っぽい色になった時に、黒い津波のことを思い出してトラウマを刺激してしまう危険を指摘され、子供が絵を描くことは取りやめた。

→JHP：カンボジアで子供達に10年後の自分などをテーマに絵を描いてもらう活動しており可能性はあるが、持ち帰って確認したい。

→IMC：アメリカの子供達から送られた絵を気仙沼に提供する企画で、被災児童にも絵を描いてもらうこと検討した。心配な点はいくつかある。任意に描いてもらうにしても、学校等の集団の場で行えば、描かざるを得なくなることも懸念され、本部のメンタルヘルス専門家に検討しても

らってから決める予定。
→WVJ：Child Friendly Space で気を付けていることについては、恐怖等の話を否定せずにすべて受け入れるということ。絵を描かせるにしても最終的にポジティブなメッセージに持っていく必要がある。学校等でやるのであれば自身も被災している教員の意見も聞くべきだろう。
→TPAK：なぜ、子供に絵を描かせるという企画になったのか、目的は？
→JICA 澤田：世界中から絵が送られてきたため、日本の子供達の絵を並べることで、「絆」世界はつながっているというストーリーをつくる。フェスティバル来場者が見ることプラス、外務省企画の「ありがとうキャンペーン」で世界からの支援へ応えるという形にしたい。
→JICA 高田：グローバルフェスタの中で東北を確認、世界からの感謝の意をいい形で残していきたい。今の時点のメッセージを残して、今後援助が海外に向かうときのツールにしたい。
→TPAK：ストーリーを聞き素晴らしいプログラムだと思うが、現場から考えると、まだ早いのではないか。今はまだ被災者を元気づける段階なのではないか。子供達が「返す」という段階ではない。
→JICA 澤田：被災地の子供達が返すという段階でないという複雑な状況理解できる。他方、復興状況は多様で、被災しながらも比較的早く復興している場所であれば、アプローチできるのではないか。そういうところをお教え頂きたい。
→：被災者の方も、世界のどこから物資が来ているか認識していない時もある。例として、被災者が感謝を表したいという気持ちに応え、届けた物資への御礼を書いてもらっている団体もある。ただ、被災地の復興状況は千差万別で、それをひとまとめにして子供の絵が良いのか、作りこみすぎでは？ということも感じる。物資が届いたところで喜ばれている状況等を示しても御礼の気持ちの表現になるのでは？
→JICA 高田：寄せ書きなどが届いたときは、届いたという記録を送り手に送り返しているケースもある。子供たちの現状がまだそういう段階ではないというというのは分かる。例えば元の学校は流されたが、他の学校で普通に授業を受けている子供達なら（アプローチ可能）ということがあれば、お教え願いたい。被災地からのメッセージとして何かしら伝えていきたい。
→グッドネーバーズ：全国からの応援メッセージに対して、被災地の方もお礼を言いたいという意見があがったので、イベント会場に白い絵葉書を置いていたところ、書いてくれた方多かった。また、七夕の一環で、笹に短冊をかけるというコーナーを設けた際、子どもが「自衛隊になりたい」等、（支援者が御礼の気持ちをくみ取れる）願い事を書いたことが印象的だった。こちらから御礼を書いてくださいと働きかけるのではなく、被災者の自主性を尊重するために手段を提供した。支援物資の送り元には、活動の写真を添えて、団体から間接的にお礼をいう形にしている。
→JANIC 田島：今は励ます時期。大槌町の避難所で横断幕に希望が書いてあったが、夢や生活など千差万別で、被災者も表現したがっているのではと感じた。絵を描くことについては注意が必要で、専門の方のアドバイス必要だが、「励ます」視点があればできることではないか。ご検討のうえ、またフィードバック下さい。

3-4　震災 100 日、今後の課題
→JANIC 田島：今後の方針に進展があればお聞かせ頂きたい。
→WVJ：さらに検討を加える必要があり、まだ披露できないが、今後の方針を検討する上で、6 分野が決定した。WV では 90 日が緊急支援、その後「開発」的視点を用いた援助に移行する。撤退する際に、開発的な視点から効果を認められるような支援内容にインテグレートしたい。組織としてはすでに東日本大震災緊急復興支援部が設置されており、来年 6 月末まで継続。その間に、震災関連活動をどう吸収していくかも検討。福島はスコープには入っているが World Vision（インターナシ

ョナル）との関係で難しい。少なくとも県外避難者を対象に支援したい。特に新潟に力を入れる。
→旭硝子：時期未定だが、コレールのニーズがある限りは一定の枠で支援したい。
→TPAK：タイ、ミャンマー、インドでも最低10年は支援している。援助への依存について心配されることもあるが、信頼関係で対応しており友人のような関係。神戸、中越への支援もしたが、神戸でも仮設出たのはつい最近。これから発生する様々な課題を考えれば、もともと釜石の支援先と環境教育等で交流があったこともあり、最低5年は支援したい。
→ピースボート：他の団体や自衛隊が撤退すると、そのぶんニーズが出てくる可能性がある。必要に応じて、石巻全体の動きに合わせて、出来ることをやるという方針。地元人材も雇用しており、専従スタッフが張り付いていなくても、現地パートナーが担うという形になる。ただ、3 か月たっても全く手もついていないところもあり、中心部がキレイになって終わりではないと思う。夏までは大掛かりな支援を継続、仮設が一段落で、その先に見えてくる課題に合わせて動いていく。
→JGC：方向性としては中長期的にと考えているが、震災関係のプロジェクトは3月末までという規定があるため、調査・企画段階。
→JIM-NET：基本的にはイラクの医療支援をおこなう団体であり、東北支援は緊急支援という位置づけで開始した。目下来年の3月末までというイメージだが、さらに継続するなら定款にも書くべきという議論はある。石巻の比重が大きいため、福島にも行きたいと考えながら行けていない。難しい状況にある福島、劣化ウラン弾問題を（カバーする当NGOの活動内容を）考慮しつつ、アプローチ方法を検討。
→BAJ：中長期的な計画は定まっていない。大船渡の協力者が仮設への弁当供給を始めたり、ニーズ調査を行っている。仮設周辺のデイケアセンターへの支援もアイデアとして挙がっている。移りゆくニーズを見極めたい。
→JHP：期間は評議会では決まっていない。社協と共同でDVCを立ち上げたため、DVCがある限りは引けない。毎年8月に派遣していたカンボジア派遣を取りやめ、その分で被災地にボランティアを派遣することとしたため、秋口ごろまでは最短でも継続。
→JANIC田島：災害対策法の関連で、DVCは7月11日が一区切り。行政、社協が協力して運営する組織に変わっていく。福島では生活復興ボランティアセンターという名称で生活支援相談員を雇用して応急仮設住宅避難者を中心に支援を進めると聞いている。
→シャプラニール：元々の近隣住民がどういう状況か、今戻ったらどういう状態なのか等、避難先によって、被災者が得られる情報量に差がある。どう情報発信していけるかが課題。
→グッドネーバーズ：当初3か月で着手したが、少なくとも12月までは活動。資金が入るたびに活動が延長できるという状況であった。いつまで資金があるかにも拠るだろう。
→HWW：DVCに2名スタッフ送っている関係で、DVC続く限り、最低でも二年。理事に医師がおり仙台に住居を移した。医療相談や衛生管理に関する支援可能か、制度上の問題などを確認中。
→オイスカ：現地に駐在しているスタッフはおらず、期日は設けていない。海岸防災林の復興で強みを活かし、まず苗木を作ることで雇用を生み出せないか等森林組合と検討している。
→CWS：来年9月末までパートナー団体と活動予定。
→JANIC田島：継続する・しないの場合に組織内でもっとも問題になるものは何か？
→TPAK：形は変わるが、ニーズがあれば。
→ピースボート：人材。災害経験あるスタッフをすべて動員しており、ほかで次に大きい災害があった場合対応できないのではと懸念。
→HWW：資金
→グッドネーバーズ：助成金では活動目的が限定されている。現地のニーズをくみ取って細かい支援を工夫していくとなると寄付金がベターだが、寄付金頼みでもいけない。それなりの活動を実施

すると、資金をどう獲得していくかが重要。さらに、事業費収入として資金の確保が必要になっていく。
→JIM-NET：仮設風呂では、協力会社やボランティアなどが物資を送ってくれる（ので物品の調達よりも）経費としては人件費がかかる。自衛隊が引き上げたときに、ニーズが増えるかもしれない。理想的には地元に引き継いで行きたいと考えており、引き継げる体制を構築していくことが課題。他の支援先ニーズとどう比較衡量するのか重要。
→JICA 高田：本業（海外業務）が縮小してしまうという懸念がある団体はあるか。
→JIM-NET：毎年実施しているイラクへの募金（バレンタインのチョコ募金等）が縮小してしまうという懸念がある。ただ、イラクの人々の日本への支援への感謝やお見舞いの気持ちも盛り上がっており、長期的には関係が深まっていくのではないかと期待している。
→HWW：カンボジアの病院支援のため毎年チャリティーコンサートを行っているが、本年は一時は中止を検討した。日本のドナーが今年は同病院を援助しないと決定したため資金難になったが、一方で海外ドナーから復興支援に関しては十分だろうカンボジアに送ってくれという要望があり、結果として、同コンサートは延期するが実施することに内定。
→JHP：（夏のカンボジアツアー取りやめた理由について）国内に大きな問題があるのにカンボジアで活動するということに対し支援者の理解を得られないのではという懸念があった。カンボジア事業に携わった人々をボランティアで派遣する計画。毎年約 20 校支援していたが、今年は、減らさないとならなくなるのではないか、7 月 2 日に天満敦子さんのチャリティーコンサート開催予定だが、カンボジア音楽教育支援が主目的であるため、震災支援をしたい人が多い中で反応が芳しくないのではないかと懸念している。
→BAJ：非常に少ない規模でやっている中で、ミヤンマー・ベトナム支援海外スタッフ個々の負担が大きくなっているということは上げられる。
→JGC：ボランティアをしたいという問い合わせをよく受ける。人的ニーズのある団体と情報交換したい。

別添（配布資料）：
１　県レベル情報シート；宮城県・岩手県（大槌町・釜石市・大船渡市・陸前高田市）・福島県
２　富士通様よりの中古ラップトップＰＣ寄贈について
３　今後予定されている会議・イベント等

■次回第 14 回東日本大震災 NGO 情報交換会
日時：2011 年 7 月 5 日(火)15 時～17 時
場所：早稲田奉仕園アバコビル 6 階スカイラウンジ

第13回東日本大震災NGO情報交換会　出席者リスト

	団体名	出席者（敬称略）
1	Church World Service	伊藤　洋子
2	JGC通訳ボランティア事務局	大崎　正信
3	JGC通訳ボランティア事務局	保坂　志保
4	JHP･学校をつくる会	田中　宗一
5	（株）旭硝子	岸和田　直美
6	International Medical Corps	田中
7	International Medical Corps	寺畑　由美
8	地球市民ACTかながわ	伊吾田
9	グッドネーバーズ・ジャパン	芳賀　朝子
１０	国際協力機構（JICA）	高田　宏仁
１１	国際協力機構（JICA）	澤田　秀貴
１２	日本イラク医療ネットワーク;JIM-NET	澤田　薫
１３	オイスカ	池田　浩二
１４	オイスカ	チェク
１５	シャプラニール＝市民による海外協力の会	筒井　哲朗
１６	ピースボート	合田　茂広
１７	ブリッジエーシア・ジャパン	大津　祐嗣
１８	ホープワールドワイド・ジャパン	平山　涼子
１９	ホープワールドワイド・ジャパン	加藤　敦
２０	（株）TICS	長縄　美樹
２１	ワールドビジョン・ジャパン	蘇畑　光子
２２	NCC震災復興支援室	Shu, Victor
２３	（株）電通	黒須　玲音
２４	JANIC提言アドバイザー	遠藤　まもる
２５	国際協力NGOセンター（JANIC）	（東京）山口・田島・藤岡・難波・（福島担当）竹内